

25年度交通局運営方針自己評価シート

1 自己評価結果の総括

(1) 1年間の取組成果と今後取り組みたいこと

- ・ 交通局では、「全員参加の安全の追求」、「実感できるサービスアップ」、「徹底した効率化と増収対策による経営健全化」に取り組み、概ね目標どおりの成果が得られた。
- ・ 安全追求の取り組みとしては、大規模な自然災害に備えて鉄道構造物の耐震化をすすめてきたが、さらに、津波浸水対策設備の整備計画を策定した。26年度からは、これまでの取り組みに加えて、浸水対策をすすめ、大規模な自然災害が発生した際にも、お客さまの安全最優先と事業の継続性を念頭とした施設等であり続けることを目指していく。
- ・ サービスアップについては、ハードソフトの両面から、サービスアップに努め、駅間トンネル部での携帯電話システムや駅における公衆無線LANシステムの設置、接客・接遇の向上に努め、とりわけバスにおいては、24年度に102件あった接客・接遇に関する苦情が47件に減少するなど、大きな効果をあげた。
- ・ また、お客様のご利用を促進する取り組みとして、沿線地域の活性化による潜在需要の掘り起こしに努めた。さらに25年9月12日に市営交通が110周年を迎えたことを記念して様々なイベントを実施し、地下鉄・バスのブランド力の向上を図った。
26年4月1日の消費税改定時には地下鉄初乗り運賃の値下げを行い、これを契機とし、徹底したPRを行い、新たな需要を喚起し、さらなる増客を図っていく。
- ・ なお、バスの経営については、コスト構造の抜本的な見直しを含め、効果的かつ効率的なバス路線・サービスへの見直しや、営業所の廃止など事業施設の適正化に努めるなど、更なる改革に取り組んだ結果、25年度の収支見込みは大幅に好転し、経常損益では31年ぶりに黒字が達成できる見込みである。

(2) 解決すべき課題と今後の改善方向

- ・ 一部の取り組みにおいては、目標未達であったものの、指標は改善傾向にあり、引き続き実施することにより、状況は改善していくものと考えている。
- ・ 地下鉄では、自らの経営責任で持続的な交通機能を確保することや、より一層のサービス向上を図るという目的を達成するため、バスでは、市民・利用者に必要な路線・サービスを将来に亘り持続的・安定的に提供していくこと及び路線・サービスの向上を図るという目的を達成するため、民営化の実現に向けて早期に議会での理解が得られるよう、必要な取り組みや検討を推進していく。